

産科麻酔最近の動向について

大阪大学大学院 医学系研究科 生体統御医学講座 麻酔集中治療医学教室
大瀧 千代

日本では少子化が問題になっている一方、近年の調査では無痛分娩での分娩数が増加している。米国では60%、フランスでは80%と言われている無痛分娩の使用率であるが、日本では最近の調査では10%である。これは数年前に6%と言われていた率より大幅に増加している。女性の視点からすると分娩の痛みが軽減されるなら当然のことながら無痛分娩を使用したい。しかし数年前にクリニックで行う無痛分娩の事故がクローズアップされ日本で安全な無痛分娩を受けるのか？という不安が社会を取り巻いた。無痛分娩の事故は関西圏で起こっている傾向がある。厚労省はこの対策として無痛分娩関係学会・団体連絡協議会JALAを設立するなどの対策を行なった。またこの事故の報道以来、妊婦さんの間では安全性重視の点から麻酔科医が行う無痛分娩の需要が増加している。しかし無痛分娩の麻酔時間は長く、麻酔科は通常業務で手が一杯の状況である。我々麻酔科医はどうすべきなのだろうか？

今回の特別講演では、無痛分娩の基本的な方法から最新の方法を紹介すると共に、日本麻酔科学会がこの数年間の間に産科麻酔に関して安全向上目的としてどのような活動を行っているかを紹介する。新しい産科麻酔関連の学会が発足した経緯と、産科麻酔認定制度と開始予定の認定試験についても紹介する。